

介護相談員たより

2号



【お問い合わせ】 千葉市保健福祉局高齢障害部介護保険事業課
電話：043-245-5062

加曽利貝塚PR大使
かそりーぬ

こんにちは、千葉市介護相談員です。


「介護相談員たより」第2号をお届けします。今号は昨年9月に行われた【意見交換会】のご報告です。この会は、介護相談員受け入れ事業所・介護相談員・介護保険事業課の三者が集いテーマに沿って話し合う貴重な機会、5年ぶり通算15回目の開催でした。現在・過去の介護相談員受け入れ事業所から22事業所25名、介護相談員23名、介護保険事業課職員5名、合わせて53名が参加し、主に『新型コロナウイルス感染症』と『介護相談員の受け入れ』について話し合いました。

新型コロナウイルス感染症からの学び～コロナ禍からみた今後の感染対策～

介護事業所はご利用者9名程のグループホームから100名規模の大型の施設まであり、居室も個室または多床室と形状が様々です。それぞれの事業所で実際に行われた感染症への対応や対策を伺いました。


感染者隔離の難しさ

- ・感染した方が居室から出てしまい、対応に苦慮した。
- ・「コロナ」や「感染症」という言葉に馴染みのない方には、「風邪」「伝染病」と説明した。
- ・「風邪をひいているので、お部屋で過ごしてください」と紙に書いてドアに貼った。
- ・食堂にベッドを搬入して隔離スペースにし、感染していないご利用者と動線を分けるようにした。

 どの事業所からも隔離に苦慮された様子と、状況によるので正解は分からないという悩みが伝わってきました。


業務の増加

- ・1ケア1消毒、入浴は15分でその都度換気している。
- ・一時的に食事を配送のレトルトに変更し、食器も使い捨てにして、感染症の対応を優先した。
- ・夜中にいつでも駆け付けられるように待機し、発熱したご利用者の診察に同行し、朝まで付き添って事業所に戻る生活が長く続いた。

 職員の方々は、今でも検温など体調管理を徹底し、手指消毒を継続されています。

面会中止から現在までの状況

- ・手紙や写真・動画を送ってご利用者の様子をご家族に知らせた。
- ・ご家族の様子を電話で聞いて、ご利用者に伝えることも行った。
- ・面会にLINEやZoomなどを活用した。
- ・LINEなどではご利用者の安心につながらなかったため、対面の面会を早期に再開し精神的な安定を図った。

 面会は、予約制で短時間という所が多く、建物の外や近所の公園、玄関の扉のガラス越し、面会室を設けアクリル板を使用、ご利用者の個室で行うなど、試行錯誤しながら少しずつ緩和しているようです。

その他のご発言

- ・職員が一丸となり、乗り越えることができた。
- ・研修や保健所の指導で、感染対策への意識やスキルがあがった。
- ・5類になり補助金がなくなったため、施設の経済的負担が増えた。
- ・この経験があるから、これからもやっていける。
- ・コロナの禍^{わざわい}は多くの課題が残っている現在進行形の脅威である。

今後のために…

- ・初動体制を確立する。
- ・指示がなくても、誰でも対応できるようにマニュアルを作る。
- ・職員の意識・知識の共有を図る。



介護相談員を受け入れて、どのように感じていますか？

- ・ 第三者の目で見られるので、職員が気付かなかったことを知ることができる。
- ・ ご利用者は外部との交流が少ないので、介護相談員と話ができることを喜んでいるようだ。
- ・ ご利用者の喜びの声を伝えてもらえる。職員や施設の良い所も言ってくれるので、励みになる。
- ・ 職員にとっても「見られている」という意識が生まれて良い効果になっている。



介護相談員は訪問活動後に毎回、管理責任者や職員の方々と意見交換を行います。ご利用者に「伝えて…」と言われたこと、介護相談員の気付きや提案を、事業所内で下記のように活用してくださっていることが今回の会議で分かり、とても嬉しくなりました。

- ・ 月一回の定例会議で報告し、善処すべき点は改善している。
- ・ 面談報告書として上司に上げ、ご利用者の気持ちに沿うようにしている。
- ・ リーダーへ記録として提出し、職員全員で共有している。



介護サービス相談・地域づくり連絡会
公式キャラクター クーちゃん

チームマネジメントについて

チームマネジメントとは：

チームのリーダーがチームをまとめ、組織の目標を達成する手法。

リーダーは、チームのメンバーの一人一人が能力を主体的に発揮できるような仕組みを作り、働きかけや調整を行いながらチーム全体の生産性を高める。

- ・ 問題点は定例会議で提言し、全職種で共有する。
- ・ 介護職だけでなく、多職種と連携して対応する。
- ・ 理念や行動指針を全職員が理解するようにしている。
- ・ 「それを自分の家族に言えますか？第三者に見られて説明できますか？」と考えて行動する。
- ・ ご利用者の受診には、病状の伝達や医師からの指示を的確に現場に伝えることができるので、看護師が付き添っている。送迎は施設の相談員やデイサービスのドライバーが対応している。

意見交換会終了後の
アンケートより

参加した事業所の声

- ・ 他施設の感染対策の現状について知ることができてよかった。
- ・ 1つのテーマについても他施設のたくさんの意見が聞けて参考になりました。
- ・ どの施設も同じような悩みを抱えているので、今後もこのような機会でも共有・参考にしていけたらいいと思いました。
- ・ リーダーとして、どのようにチームマネジメントするかの具体的な方法を知ることができてよかった。
- ・ 施設にいと考えると考え方が狭まってしまうので、今回聞いた話はとても有意義でした。
- ・ 以前当施設に来てくださっていた介護相談員さんにお会いできてとても嬉しく思いました。
- ・ 施設の種別に分けてくださっていて、他施設の課題、取り組みも伺うことができ参考になりました。
- ・ 介護相談員と話した内容を、そのまま職員に伝えてもいいですよと言われ、考えが広がった。



コロナに対し職員の皆さんがプロの意識をもって勤務されたことや、今後に生かせるように全体で確認し合っ対策されている様子は素晴らしいと思った。



積極的なご意見、他の事業所へのご助言などから、仕事に対する姿勢や日ごろの様子が分かり、とても有意義な意見交換会だったと思う。



会議終了後に、事業所の皆さんが名刺を交換しながら談笑されていた姿が印象的だった。

介護相談員の感想

編集後記

今回は、千葉市が平成17年度より取り組んでいる意見交換会についてご紹介しました。

コロナという未曾有の感染症に、現場は私たちが心配していた以上に壮絶なものだったことを知りました。各事業所が手探りで対応してきた内容や現在の状況をお互いに「参考にする」「事業所内で共有する」と話されるのを聞いて、開催できて本当に良かったと思いました。

「介護相談員たより」には、「便りと頼り」の思いを込めてお届けします。

千葉市介護保険事業課です。
意見交換会にご出席いただきました事業所の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

次回以降も、多くの事業所の皆様のご参加をお待ちしております。